

最後に、今日の学びをもとにした問いを行い、10分ほどかけて2時間扱いの授業をしっかりと振り返ります。そして交流活動を入れます。

発問4 「規則だから入れない」(遵法精神)と簡単に考えるだけでなく、「思いやり」「よりよく生きる喜び」「生命の尊さ」「公正、公平」の視点からも考えました。「規則を守る」ことについてどのようなことを考えたか振り返りましょう。【交流】そして、どのような「人生のプラスワン」を得ることができましたか。

「決められた時刻を過ぎたら入園させない、保護者の同伴がない子どもは入園させない。」という規則を守るか、守らないか(「入れない」か「入れる」か)を扱っている以上、そこでの議論には「遵法精神」が何らかの形で関連してきます。自由^①に多面的・多角的^②に考え合いながらも、関連を保ったまま、本時のねらいへと向かえるのです。

ICTを活用してよりアクティブに

ICT活用のメリットとしては、全員の考えの分布を把握しやすいので、多面的・多角的な思考が促されやすくなること、結果として意図的指名にいかせることがあげられます。なぜICTを使うのか、その根拠を明確にすることで授業改善が進みます。

以前、『多面的・多角的な学びのある授業をつくる 対話的な学びと思考の見える化』と題して発表したプランでは、①～⑤について次のような表に表現させ、少人数で検討させる方法を提案していました。(→道徳通信「とびだそう未来へ」2018年秋号 p.14～16)



	思いやり	よりよく生きる喜び	遵法精神	生命の尊さ	公正、公平
A 入れない					
B 入れる					

この方法ですと、生徒は選択に対する微妙な心情を表現することはできません。また、授業者は机間巡視をして、表の○×の散らばり具合を把握しなくてはなりません。加えて、班の中だけでは多様な意見が出ないこともあります。ICTを活用することでそれらは解消されます。

なお、ICTを活用した授業では、板書がおろそかになってしまうことがあります。このプランでは、中心になるICTを活用した場面でも、生徒の意見を板書することで、生徒の思考が残るようにしています。

また、本プランで示した通り、ICT活用の際に生じやすい沈黙は、画面共有などで多様な考えを見える化したときに対話活動を多めに入れることで解消することができます。

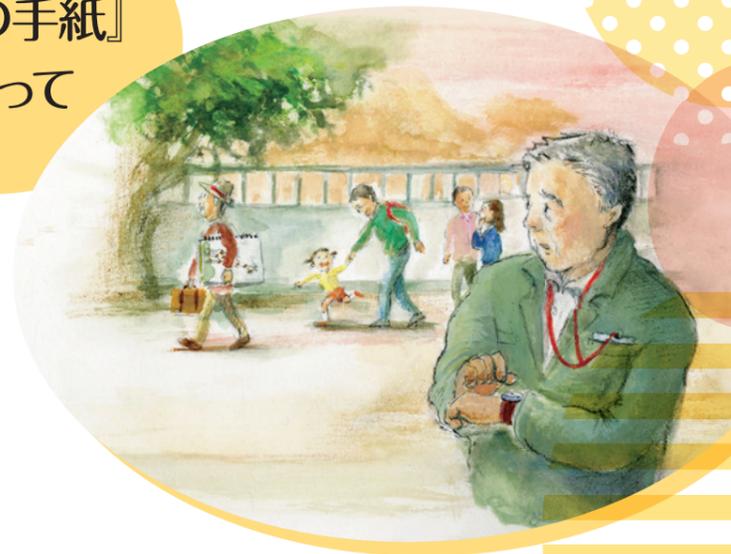
熊本市立常山中学校校長 桃崎 剛寿

ICT活用による 道徳授業改善

～対話的な学びと思考の見える化～



『二通の手紙』
を使って



発行所：教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館 TEL: 03-5579-6278(代表)

URL: <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。

学校現場では、この3年ほどで一人一台タブレットを活用した授業改善が進んできました。ここでは、ICTを活用して、対話的な学びと思考の見える化により「考え、議論する」道徳科の授業をさらに深めるプランを提案します。『二通の手紙』を使った2時間扱いのプランです。

教材「二通の手紙」

『私たちの道徳 中学校』（文部科学省）にも掲載されていた、中学校道徳の定番教材『二通の手紙』。「元さん」がとった言動について考えることで「規則の大切さ」に迫る、人気が高い教材です。

【概要】 動物園の入口に、入園時間を過ぎてから現れた幼い姉弟。「今日は弟の誕生日だから」と入園をせがむが、保護者の同伴もない。姉弟の事情を察した入園係の元さんは、園の規則を破って入園させるが、二人は閉園時間になっても出てこず、職員が探して無事発見される。後日、姉弟の母親から感謝の手紙をもらうが、元さんは懲戒処分となり、自ら職を辞する。

授業のねらい

規則を守ることや、規則のよりよいあり方について、多面的・多角的に検討することで、規則の大切さや意義を深く考え、道徳的判断力を高める。

1 時間め

根拠を多面的・多角的に考える

事前に教材を数回読ませておきます。そして教師が解説をしながら読んでいき、教材の内容や状況を理解させます。

発問1 どうして元さんは規則を破ってしまったのでしょうか。

次のような生徒の意見が予想されます。

- ①幼い姉弟へのいたわり、哀れみ、思いやりの気持ちから。
- ②人生のすばらしさを感じてほしかったから。

教科書に掲載されている内容項目一覧のページを見

せて、「22の内容項目の言葉から選んであてはめるとすると何かな」と尋ねると、①には「思いやり」、②には「よりよく生きる喜び」あたりをあてはめましょう。これらを板書します。

発問2 元さんは子どもたちのお母さんから感謝の手紙を受け取りますが、そのあとに起きたことを考えると、元さんの行動にはいけなかったことがあります。どんなことでしょうか。

次のような生徒の意見が予想されます。

- ③規則は規則だから守るべき。
- ④幼い姉弟の安全が確保できていなかった。
- ⑤他の客に平等でなかった。

発問1と同様に内容項目の言葉をあてはめさせると、③には「遵法精神（本時のねらい）」、④には「生命の尊さ」、⑤には「公正、公平」あたりをあてはめましょう。黒板に五つのハートを書き、その中にそれぞれの視点を書きます。

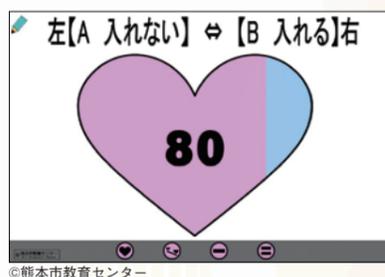
このように、生徒が感じた道徳的価値をどれも大切に扱い、そこから授業を創ることで、生徒は自分が思ったことや考えたことを気兼ねなく出せる安心感を感じ、主体的に考えることができます。

「ハート図」で思考を見える化する

発問3 ①から⑤の言葉ごとに、あなたは「入れない」「入れる」のどちらの気持ちが強いのですか。その理由はなんですか。

タブレットを使い、熊本市教育センターのホームページに公開されている「心の数直線」を操作して表現させます。「A 入れない」の方が80、「B 入れる」の方が20と考えたとすると、下の図のようになります。

そして、それぞれの理由もワークシートに書かせていきます。ここで1時間めを終えます。



2 時間め

対話的な学びで、多面的・多角的に考え合う

五つの内容項目の言葉について、一つずつ全体で考えていきます。40分ほどの活動になりますが、グループでの対話活動を適宜入れることも考慮します。

生徒一人一人のハート図を、ロイロノートで全体共有します。そして、「入れない」と「入れる」の多いほうから、そう考えた理由を発表させ、黒板のハートに板書していきます。全体的にみてどちらのほうが多かったかも書き加えます。この活動を五つの言葉についてくり返します。

さらに、それぞれの関係も線で結んで、相互の関連をおさえていきます。（下図参照）

①「思いやり」の視点で考える

「思いやり」の場合、「入れる」のほうが多くなることでしょうか。その中で、「入れない」を選んだ生徒の中から、「子どもの安全性を考えて判断することが本当の思いやりだと思うので、入れない。」という考えも出るかもしれません。

②「よりよく生きる喜び」の視点で考える

これにはさまざまな考えが出てきそうです。「規則の大切さを教えることも人生をすばらしく生きるために大切なことだと思うので、入れない。」という考えや、「幼い姉弟がこの楽しかった経験をもとに生きる喜びを感じていけるかもしれないので、入れる。」という考えもあ

るでしょう。

このようにさまざまな考えが出た場合は、4人班で「どの意見に賛同するか。その理由は何か。」を話し合う活動を入れます。ICTの活用は、ややもすると生徒間の対話不足や沈黙を生みます。授業のリズムや空気感を大切にすうえでも大切です。

③「遵法精神」の視点で考える

生徒の多くが「規則は守らないといけない。」という考えで「入れない」のほうを選ぶでしょう。しかし、「誰かが姉弟の見守りをするなど、規則を守りながら入れることができそう。」という考えや、「規則だから絶対守るというのではなく、その場その場で臨機応変に考えなくてはいけないこともある。だから入れないほうがよいと単純にいえない。」という考えなど、「入れる」ほうの意見にもキラリと光る意見が出ることでしょう。

④「生命の尊さ」の視点で考える

多くが「規則が安全や命を守る。」という考えで「入れない」のほうを選ぶでしょう。一方、「入れる」側からは「幼い姉弟は、希望がかなうことで命が輝き始めるかもしれない。そう考えれば入れないほうがよいとは単純にいえず、逆になることもあると思う。」という考えなどが出るかもしれません。

⑤「公正、公平」の視点で考える

多くが「規則を守ることが誰にでも公平に対応できることになる。」という考えで「入れない」のほうを選ぶでしょう。一方で、「公正、公平といっても、このような特別な場合には姉弟の現状を優先したほうがよい。」という考えもあるでしょう。

